



表紙写真：深浦円覚寺所蔵『三蔵法師袈裟図(七条)』

津軽における 寺院資料の世界

— 深浦円覚寺の古典籍を基点として —

2019年度 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会
弘前大学深浦エコサテライトキャンパス 令和元年度特別公開講座
弘前大学人文社会科学部・名古屋大学人文科学研究科 学術協定締結記念

2019年 7月13日(土)

13時～16時30分 入場無料
(開場12時30分) 事前申込不要

弘前大学コラボ弘大8階 八甲田ホール
(青森県弘前市文京町3番地) (定員100名)

特別講演

地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像

— 聖教調査とアーカイブス化の意義とは何か —

名古屋大学 高等研究院 教授 阿部 泰郎 先生



弘前の寺院と歴史について、新たな視点で学んでみませんか？ 深浦円覚寺の古典籍調査の結果、津軽の寺院に関する新発見がありました。このフォーラムでは、中世・近世における津軽と深浦の関係を、絵図や古文書、深浦円覚寺所蔵古典籍から考えます。また名古屋大学の阿部泰郎先生に、地方における寺院資料の意義についてご講演いただきます。津軽の歴史や寺院について、深く学んでみましょう。

主催：深浦町 弘前大学 深浦町教育委員会
弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
後援：弘前市 東奥日報社 陸奥新報社

公益財団法人青森学術文化振興財団の助成を受けています。

問い合わせ

弘前大学人文社会科学部総務G 担当：福士
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
電話：0172-39-3192
メール：jm3192@hirosaki-u.ac.jp

プログラム

- 13:00 開会の辞 深浦町長 吉田 満
- 13:05 ご挨拶 円覚寺副住職 海浦 誠観
- 13:10 ご挨拶 弘前大学 人文社会科学部長 今井 正浩
- 13:20～13:30 真言宗津軽仏教会による御法楽(実演)
- 13:30～14:20 講演1 近世津軽と深浦
弘前大学 教職大学院 教授 瀧本 壽史
(休憩10分)
- 14:30～15:20 講演2 深浦円覚寺所蔵古典籍の意義
— 津軽の寺院における「知のネットワーク」—
弘前大学 人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子
(休憩10分)
- 15:30～16:30 【特別講演】
地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像
— 聖教調査とアーカイブ化の意義とは何か —
名古屋大学 高等研究院 教授 阿部 泰郎 先生
- 16:30 閉会の辞 弘前大学 理事(社会連携担当) 石川 隆洋
弘前大学 深浦エコサテライトキャンパス所長

講師紹介



特別講演 地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像 — 聖教調査とアーカイブ化の意義とは何か —

あべ やすろう
阿部 泰郎 先生 名古屋大学 高等研究院 教授
龍谷大学 特任教授

名古屋大学高等研究院教授。神奈川県横浜市出身。大谷大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は、日本中世文学を中心とし、説話文学、仏教文学、芸能史、民俗宗教学、寺院資料と幅広い。1984年に第11回日本古典文学会賞受賞。著書は、『湯屋の皇后 中世の性と聖なるもの』(名古屋大学出版会、1998年)、『中世日本の宗教テキスト体系』(同、2013)、『中世日本の世界像』(同、2018年)など多数。寺院資料の調査研究によって中世の文学世界を切り拓き、中世文学研究を領導されてきました。名古屋大須観音真福寺の調査による『真福寺善本叢刊』(臨川書店)や、仁和寺の聖教調査による『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究』(勉誠社、1998年)は大変著名です。本講演では、地方における寺院資料の意義について、アーカイブ化などの視点も交えて、幅広い観点から解説していただきます。



講演1
近世津軽と深浦
弘前大学 教職大学院 教授
たきもと ひさふみ
瀧本 壽史

弘前大学教職大学院教授。平川市(旧平賀町)出身。早稲田大学大学院文学研究科修了。文学修士。専門は日本近世史。特に北奥地域における藩政史を中心に、津軽・下北地域をフィールドとした研究を行う。高校教諭、青森県立郷土館、青森県史編さん室などを経て現職。前任は弘前高校校長。新編弘前市史、浪岡町史、青森県史など自治体史の編集・執筆を行う。論文に「寛政改革と藩土着政策」(『津軽藩の基礎的研究』国書刊行会)、「海峡を越える地域間交流」(『列島史の南と北』吉川弘文館)など多数。本講演では、絵図や古文書をひもときながら、近世津軽と深浦の関係をわかりやすく解説します。

開催趣旨

弘前の寺院や歴史を、新たな視点から学んでみませんか？
近世の津軽と深浦との関係を絵図や古文書からひもときます。
また深浦円覚寺古典籍調査で発見された資料から、津軽の寺院と歴史や、津軽の「知のネットワーク」を考えます。さらに名古屋大学の阿部泰郎先生に、地方における寺院資料の意義についてご講演いただきます。弘前・津軽の寺院や歴史に関する、近年の調査研究による新情報を満載したフォーラムです。

真言宗津軽仏教会による御法楽(実演)



真言宗における御法楽を、実演していただきます。
法螺貝や太鼓による演奏や、経典を美しく唱える声明を、実際に
見て、聴いてみましょう。
(写真は「テラハク」での実演。今回はミニライブとなります。)

ミニ資料展観

深浦円覚寺所蔵の貴重資料を会場で展観します。鎌倉期写本や修験資料を、この機会に是非直接、御覧下さい。



講演2
深浦円覚寺所蔵古典籍の意義
— 津軽の寺院における「知のネットワーク」—
弘前大学 人文社会科学部 教授
わたなべ まりこ
渡辺 麻里子

弘前大学人文社会科学部教授。千葉県出身。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。専門は日本中世文学。仏教文学や寺院資料調査を主とする。主な業績に、「天台仏教と古典文学」(『天台学探尋』法蔵館、2014年)「天台談義所をめぐる学問の交流」(『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年)などがある。近年は、津軽地域の文献資料調査を行い、深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトや弘前藩藩校「稽古館」資料調査プロジェクトなどを推進する。本講演では、深浦円覚寺古典籍調査の最新の成果を紹介しつつ、津軽の寺院や歴史、津軽の知のネットワークを解き明かします。